

# 「こんなときは神経内科に行こう！」

## パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 福島

**参加費無料!**  
各会場先着順

50~60歳代で発症することが多く、国内には約15万~18万人の患者さんがいると推定されているパーキンソン病は、ほかの脳の病気、けが、感染症、動脈硬化などによく似た症状を示すことがあり、なかなかパーキ

ンソン病と診断がつかないケースも見受けられます。このシンポジウムでは、パーキンソン病をはじめとする脳や神経の病気について、その専門家である神経内科のお医者さんが皆さんにわかりやすく解説します。

日時: **4月26日(日)** 14:00~16:00

メイン会場: **ホテルハマツ** (JR郡山駅西口徒歩20分) **100名様**

サテライト会場 (郡山のメイン会場の講演をライブ放送でご覧いただけます)

福島会場 **ホテル辰巳屋** (福島駅東口より徒歩1分) **50名様**

会津若松会場 **会津若松ワシントンホテル** (会津若松駅より徒歩3分) **30名様**

いわき会場 **平ビューホテル** (いわき駅より徒歩4分) **30名様**

白河会場 **ホテルサンルート白河** (新白河駅前より徒歩1分) **20名様**

南相馬会場 **ロイヤルホテル丸屋** (原ノ町駅より徒歩1分) **30名様**

共催: 神経内科フォーラム グラクソ・スミスクライン株式会社

後援: 一般社団法人 日本神経学会 全国パーキンソン病友の会福島県支部

### 神経内科は患者さんをていねいに診て、 神経や脳の病気を見つけ、治療します。

神経内科医は筋肉から脳に至るまで、きわめて多岐にわたる疾患を、日々最新の知見を習得しつつ診療しています。

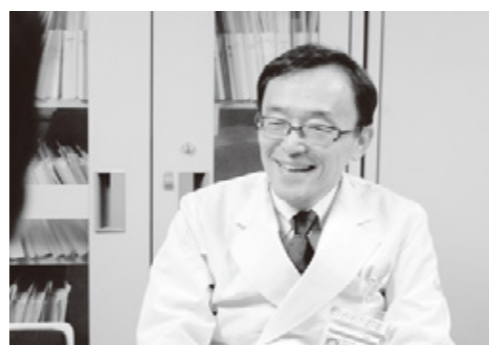
#### 神経内科医は「全身を診るお医者さん」

全身に張り巡らされた神経は、脳を使って思い出したり考えたりする認知機能から、筋肉を使って歩いたり走ったりする運動機能、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚などの感覚器を用いた情報伝達機能、さらには呼吸・消化・循環・発汗など、意識せずに体が生命

活動を続けるための自律神経にいたるまで、体全体がうまく調和し、機能するために休みなく働いています。神経内科医は、全身をコントロールする神経の不調を的確に診断する「全身を診るお医者さん」として、とても貴重な存在です。

#### 頭痛から神経難病まで 最善の治療法を提示

神経内科では、頭痛、認知症、脳卒中など、比較的患者さんの多い病気から、患者さんの少ない神経難病までを扱います。そのためにはさまざまな検査を行って、患者さんを細かく診察し、見えない病気の実態を把握し、その原因を突き止め、患者さん一人一人の症状と生活に合った最善の治療法を提示するのが神経内科医です。



#### ◆プログラム

14:00~14:25

神経内科の紹介 (座長:宇川 義一先生)

14:25~14:50

パーキンソン病とその診断法について (前田 哲也先生)

15:00~15:25

パーキンソン病の治療について (武田 篤先生)

15:30~16:00

パーキンソン病患者さんに寄り添う神経内科医  
(事前質問に答えるコーナー)

#### セミナー講師の先生にインタビュー

4月26日に開催する「こんなときは神経内科に行こう! パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 福島」講師の先生方にお話を聞きました。

#### ◆パーキンソン病について

福島県立医科大学医学部 神経内科学講座・教授 宇川 義一先生

パーキンソン病とは、手足がふるえるようになる、動作が遅くなる、歩き方がぎこちなくなるなどの、主に運動能力に支障を来す症状を特徴とする病気です。多くは中年以降に罹り、高齢になるほどパーキンソン病にかかっている方は増え、日本では人口10万人あたり100人から150人程度の患者さんがいるといわれています。

40歳以下で発症する場合は、若年性パーキンソン病と呼ばれますが、この中には遺伝子異常が発見されるケースもあります。

私たち神経内科医は、パーキンソン病を早期に発見・治療しながら、発症前と変わらない生活の質を維持できるように、一人一人のご要望を伺い、患者さんご家族に長く寄り添い、支えることを心がけています。



#### ◆パーキンソン病の診断法について

秋田県立脳血管研究センター 神経内科・診療部長 前田 哲也先生

パーキンソン病にはさまざまな症状があり、神経内科医は患者さんの動きや問診時の受け答え、ご家族の話などから総合的に診断をし、患者さんの症状や生活に合わせて、なるべく発症前と変わらない生活ができるように、治療法を提案しています。



#### ◆パーキンソン病の治療について

独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院・院長 武田 篤先生

世界中で研究が進み、治療法の選択肢も増えたパーキンソン病。一番大切なのは「あきらめない、意欲を失わない」ことです。神経内科医は患者さんご家族が抱える不安を解消するための説明やアドバイスも行って、安心して治療を受けられるように心がけています。



チェック ✓  
こんな症状があれば  
神経内科へ

- 頭の痛み
- もの忘れ
- しびれ
- めまい
- ふるえ
- うまく力が入らない
- 歩きにくい、ふらつき、つっぱり
- むせる
- しゃべりにくい
- ひきつけ、けいれん
- ものが二重に見える

#### ◆申し込み方法

お名前・ご住所・お電話番号・年齢・性別・ご希望の会場名をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。ホームページからお申し込みいただけます。先着順で参加証を郵送しますのでお間違いのないようご記入ください。

ファックスの場合 FAX 03-5550-6550

郵送の場合 〒104-8176 東京都中央区銀座7-13-20

(株)日本経済社内

「こんなときは神経内科に行こう! 福島セミナー」係宛

ホームページ:「神経内科フォーラム」で検索してください。

<http://www.neurology-forum.org/>

【お問い合わせ先】 TEL 03-5550-6263 (平日10:00~16:00)

【締め切り】 4月15日必着 (先着順で定員になり次第締め切らせていただきます)

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル

<http://glaxosmithkline.co.jp>

